

第3回 鯖江市行政評価委員会（Bグループ）議事録

- 【日 時】 10月19日（金） 18:00～21:00
- 【場 所】 鯖江市役所 4階 第3委員会室
- 【出席者】 行政評価委員5名（井上、掃部、齋藤英、佐飛、細田）
宇野政策経営部長、友永企画財政課長、斉藤参事、鈴木主事、藤田主事
- 【傍聴者】 1名

1 開会

2 外部評価実施

① 情報通信技術（ICT）を活用する（所管：情報統計課）

<概要説明>

◆基本施策個別評価シートに基づき概要説明

<質疑応答>

委員：施策成果指標となっている電子申請の利用件数の、電子申請の中身は。

所管課：e-ラーニング利用申請、公民館等の施設利用申請など。

委員：電子入札は。

所管課：含まれる。

副委員長：事務事業として3つの事業があげられているが、「情報利活用能力向上推進事業」は平成24年度で終了、「UST・行政情報XML化推進事業」は平成25年度で終了となっており、「IT推進フォーラム事業」しか残らないことになる。新たな取り組みは考えているのか。

所管課：変化が激しい分野なので、今から考えておくことは難しい。「情報利活用能力向上推進事業」については、一旦終了し、NPOなどの民間活用、出前講座の充実への転換など、新たな方策を考える。UstreamとXMLについては、先端のことなので平成25年度で終了して再検討する。

副委員長：施策評価を見ていると、課として進めていくというより、他の課やNPOなど、市全体に浸透を図り、先端の事を市として進めていくと認識していいのか。

所管課：なかなか難しいが、市全体で進めていく。

委員：facebookの鯖江市職員の登録数は。

所管課：昨年度の段階で90人弱。約4分の1

委員：職員によって温度差があるので、もっと活用するよう声かけをしてほしい。

所管課：出せない情報があり、情報発信に対する職員の意識をなかなか変えられない。昨年度、ソーシャルメディアに関するガイドラインを定めたが、これは規律を重視したガイドラインなので、情報を発信する方に重きをおいたガイドラインを早急に定めたい。

委員：Ustreamに積極的に取り組んでいるが、視聴率がかなり少なく、コストパフォーマンスが低い。推進していく順序を考えても良いのでは。先端をいくより、底辺を広げることに予算を使うべきでは。facebookの登録者数は、鯖江市は多いように思えるが、実際は福井市や坂井市よ

り若干少ないくらい。また、携帯電話がスマートフォンに変わってきたこともあるので、携帯で見られる情報発信に移行してはどうか。越前市は、携帯で facebook 教室を開講している。議会を Ustream 配信しているが、視聴者は 20 ないくらい。録画され、いつでも見れるのが良い面ではあるが、議会などはタイムリーに見ることが大切なのではないか。20 という数字をどう思っているのか。

所管課：東京のイベントの Ustream 配信でも、そんなに視聴者は多くない。様々なメディアで情報発信することのメリットの方があると考えている。

委員：議会の傍聴者数は。

所管課：通常は記者を除くと 3～5 名程度。

委員：それと比べると、Ustream の視聴者 20 は悪い数字ではない。どこと比較するかによる。

所管課：視聴者が増えないことには問題を感じている。

委員：議会のダイジェストを作成してほしいと依頼したが、どうなったか。

所管課：3 月議会で 2 回ほど作成した。今後も続ける。

委員：要望だが、年配の方にも情報機器に興味を持っている人は多くいる。高年大学だけでなく、老人会などで講座を開いてほしい。

所管課：出前講座を実施している。言っていただければ、数名対象の小さなものでも、情報統計課の職員が出向いて教える。

委員：予算は持っているのか。

所管課：持っていない。職員が行く。需要があれば予算もつくので、実績を作って要求していきたい。

副委員長：市側も仕事なのだから、声をかけにくいなどと思う必要はない。

所管課：ぜひ声をかけていただきたい。

委員：消防署の前に、防災フェアの看板があり、facebook のいいね！のマークがついている。誰のアイディアか。

所管課：消防職員のアイディアだと思う。当日ははしご車の上から Ustream 配信もする。

委員：市内各所にいいね！のマークがあるのも、影響力があり面白い。新たなシンボルになる。

副委員長：昨年評価した e-ラーニングを、本当に終了とした。評価結果が反映されている。

<方向性判断>

副委員長：総合評価を B とする。

facebook の活用などについて、市役所内に温度差があるので、全庁的な取り組みを推進し、リーダーシップを発揮すること。様々な媒体で情報発信し、選択肢があることは良いことなので、新たな手段が出てきたときには積極的に取り入れること。ICT のまち鯖江として、結果が数字で分かるような取り組みをすること。年配の方に対する講座の開催など、底辺を広げる取り組みをすること。以上を委員会からの意見としたいが、よろしいか。

委員：異議なし。

② 地域資源を活かす観光を推進する（所管：商工政策課）

<概要説明>

◆基本施策個別評価シートに基づき概要説明

<質疑応答>

委員：中道アートは、事務事業調書のどの事業に当たるのか。

所管課：観光関係の事務事業としては掲載されていないが、産業関係で予算を持っている。誠市は商業の予算で対応するなど、観光予算だけで観光事業をやっているわけではない。

委員：観光が商業に影響しているケースは。

所管課：ある。また、特に産業観光は鯖江ブランド推進グループとも連携を取りながら進めている。

委員：観光協会と連携しているのは良い。しかしもみじまつりの来場者数が目標値に達成していない。気候や天候に左右される時期であるので、賑やかな祭りではなく、歴史的に開催してはどうか。つつじまつり、さくらまつりを賑やかな祭りとすればよいのではないか。

所管課：もみじまつり実行委員会との絡みもあり、変えることはなかなか難しい面もある。去年は焼き鳥合衆国を開催したが、天候に恵まれなかった。もみじまつりについては、歴史的にしつとりと開催したほうがイメージに合うし、期間も長く取れ、効果が上がるかもしれない。今年はものづくり博覧会と同日になったが、駐車場がないという問題点がある。もてなしが十分にできないのではないかと危惧している。また、どのまつりもだが、人が集まるだけではない。商店街に人が流れ、商業や地域が活性化するように仕掛けなければならないと思っている。

委員：メインの焼き鳥合衆国は奥に配置し、お客さんが奥まで行くようにしかけるべき。

所管課：今年は芝生広場の奥に配置された。

委員：昨年度意見を述べたが、物産協会のパンフレットはあるのか。

所管課：県の物産協会パンフレットに掲載させてもらった。単独では作っていない。物産協会の会員は今年3社増えて35社となった。会員を増やす取り組みを増やし、PRに取り組みたい。

副委員長：今後、市独自のパンフレットを出す予定は。

所管課：ない。

委員：基本的には、物産協会の会員にまず情報が入ってくる。物産協会に渡ったお金が、会員にだけメリットがある状態は良くない。

所管課：会員の方には、まつりやイベントにお店を出して手伝っていただいている。そのことから支援をしたい。

委員：まつりやイベントなどのほうに支援をしてほしい。

委員：つつじまつりの来場者数だが、平成22年度に比べて平成23年度は減っている。今年の見込みは。

所管課：天候が悪かったため、減ると予想される。つつじの開花時期を予測することが難しく、なかなかまつり期間と見頃とが合わない。今年はまつりの開催期間をのばしたが、イベント自体は期間限定でしか実施できない。公園はずっとあるものなので、見頃時期を示し、いつでも西山公園でおもてなしをできる体制を整えたい。道の駅も活用し、通年での取り組みを今後していきたい。

委員：つつじまつりの来場者数は県内、近隣の人が多いと思われる。つつじまつりはゴールデンウィ

ークに開催しているが、県内の方はゴールデンウィークには県外に旅行に行くのではないかな。イベントの日を変えて、ゴールデンウィークは県外、次の週末はつつじまつり、と過ごせるようにしてはどうか。

所管課：山ではつつじを見てもらい、買い物は商店街で実施しているにぎわい横丁へと、商店街への人の流れを作りたい。開花時期と合わせるのならば、イベントを動かさなければいけないが、実行委員会が年明けから準備しているため、臨機応変に変えるのは難しい。

委員：本日の福井新聞に、福井県出身の東京の学生が鯖江の情報を発信するという記事が載っていた。イベントもだが、もっと鯖江を発信できる取組をしなければならない。道の駅は、鯖江発信の場であるべき。

所管課：本日の記事の学生の活動は、地域活性化プランコンテストで鯖江に来た人がサポートしている。都会の中で、鯖江を知っている若者を増やす取り組みも重要。昨年度は念願の観光サイト「さばかん」を作成した。また、次の週末、秋葉原と御徒町の間にある 2k540 で鯖江の PR をする。さばかん閲覧者の 2 割は関東の方なので、都市圏での PR は効果が大きい。産業の部門ではあるが、観光と連携し、外へ出向いたり「さばかん」を活用して、鯖江の PR を行っていきたい。

委員：旧今立の越前東京物語のようにもっと発信してほしい。

委員：今年から、丹南産業フェアに参加せず、単独でさばえものづくり博覧会を開くこととなったが、その意図は。

所管課：越前市とは産業構造が違うこともあり、思いがかみ合わないところがあった。鯖江は小さな事業所が多く、丹南産業フェアだと出店数が 30 程度に留まっていた。ものづくり博覧会は 205 社が 455 のブースを出す。後継者育成に関する取組みも含め、発展的解消と考えている。

委員：観光施設管理事業について、実施形態が「民間等委託（一部）」となっているが、委託先は。

所管課：遊歩道のある地元地区。草刈り、道整備作業の委託や、原材料支給などを行っている。

委員：予算配分を教えてほしい。

所管課：(所管課より回答)

委員：石田縞手織りセンターについて、管理はどこがしていて、来場者数は。

所管課：管理は鯖江市繊維協会。来場者数は昨年度で年間 1,200 人。体験者数は 454 人。その他、学校からの体験をまとめて受入れている。

副委員長：施策成果指標の年間観光客入込数が 2 年連続で大幅に増加している。今後の見込みは。事務事業の評価は A が 3 つ、B が 1 つ、C が 3 つと幅があるが、結果としては良いと見ればよいのか。

所管課：観光客入込数の中で大きなつつじまつりについて、今年度は減少した。昨年度ほどの入込数は見込めないのではないかと考えている。今後は、人数だけでなく中身を充実させていきたい。

副委員長：最近、サンドームで大きなコンサートを実施することが多い。その場での PR は。

所管課：会場に行つての PR はできない。JR 鯖江駅の観光案内所などでおもてなしと合わせて PR している。一時期は沿道で PR もしていたが、イベントに行くことを目的としているため、なかなか観光案内に興味を示さない。

委員：JR 鯖江駅で降りても、鯖江のお土産を買う場所がないという声を聞く。

所管課：サンドームでのイベントは、目的が違うので、なかなか観光やお土産に結びつかない。また、地元も変わってきており、鯖江の土産ができつつある。循環ができてくれば、土産売り場も確保できるのではないかな。

<意見交換>

副委員長：内部評価はAであり、年間入込客数の伸びは大きい。事務事業にCランクが3つあるが、説明を受けたとおり、天候等、避けられない要件が絡んでいる。特に委員から問題点は出なかったし、民間の意向を把握し、同じ方向を向いている。総合評価もAで良いと思うが、どうか。

委員：異議なし。

<方向性判断>

副委員長：総合評価をAとする。

もみじまつりについてはしっかりと開催するなど、イベント重視のまつりばかりではなく今後の方向性を検討すること。新たにできる道の駅を活用し、鯖江の情報をさらに発信していくこと。イベントの際、天候によるリスクを最小限に抑えられるよう、工夫をすること。以上を委員会からの意見としたいが、よろしいか。

委員：異議なし。

③ 青少年を健全育成する（所管：生涯学習課）

<概要説明>

◆基本施策個別評価シートに基づき概要説明

<質疑応答>

副委員長：青少年の健全育成において、究極の目標は非行の問題行動の予防と早期発見だが、非行と問題行動の数、もしくは補導数などは。

所管課：愛護センターで、補導した数を把握している。コピーしてのちに配布する。

委員：施策成果指標である勤労青少年ホームの利用者数が劇的に増えている。この利用者数に青年会館は含むのか。

所管課：青年会館は含まない。講座やサークルの数が増えたこと、また利用できる年齢を40歳未満までに拡大したことが影響していると思われる。情報発信などの働きかけも積極的に行っている。

委員：青年会館と勤労青少年ホームは管理者が同じだと思うが、分けている理由は。

所管課：建設された年代が違う。また、一般的に青年会館は管理しているが常駐職員がおらず、連合青年団が事務局として利用している。講座、サークル等の活動で使用しているのが、勤労青少年ホームと勤労者体育センター。

委員：公民館合宿通学事業について、公民館により参加人数がまちまちだと聞いているが、参加者数を把握しているか。

所管課：鯖江地区と神明地区は、小学校が2つあり人数も多いため、参加者に人数制限を設けている。それ以外の地区は平均で95%程度の参加率となっている。

委員：2地区については学校ごとに実施することはできないのか。

所管課：スタッフへの負担もあり、2回実施するのは難しい。公民館での実施は、宿泊や入浴の問題が

あり、大変な面も多い。以前は120人程度受入可能な青年の家で実施していたこともあったが、地元スタッフとの交流が難しくなる。安心安全な地域の拠点を作るためにも、地元での開催が適当と考える。

副委員長：他は95%なのに、鯖江地区と神明地区の参加率が低く、アンバランスと感じる。どう考えているのか。

所管課：やむを得ないと考えている。公民館とスタッフのキャパシティがない。だが、申込者は全員受入れている。

副委員長：学校側の姿勢も関係してくるのか。全員希望があれば全員受入れるのか。

所管課：関係する。全員の受入は、努力はするが併設体育館もなく、対応できない部分もある。

委員：ボランティアから、団体等への人数割当だから仕方がないという声も聞かれる。

所管課：資料のボランティア数は、延べ人数で子どもの倍となっている。今年も1,300名を超える方に協力いただいた。毎年増えている。

委員：補導数についてだが、補導は誰が行っているのか。

所管課：センターには、警察のOB 2名の常駐補導員と、職員として県警から1名派遣されている。

委員：配布された資料だが、補導以外の注意も入っているのではないか。

所管課：入っている。

副委員長：補導する数は増えているのか。増えたから悪いわけではなく、予防に繋がる意味もある。

所管課：やや減っている。低年齢化していることは間違いない。

副委員長：情報交換をする場は。

所管課：管内における情報交換はしている。

委員：青少年健全育成鯖江市民会議事業補助金について、市民会議の決算書を見せてほしい。また、市民大会の参加者数がざっくりしすぎていないか。

所管課：事務局が生涯学習課であり、入出金の管理もしている。市民大会の参加者数は把握している。

委員：市民会議の決算書の中にある、環境浄化部会の費用内訳を示してほしい。

委員：環境浄化部会について、安全マップは何部作成しているのか。

所管課：10の地区ごとに作成し、全部で7,000部作成している。幼稚園、小学生、中学生の子どものいる家庭、公民館、児童館などに置いている。

委員：かけこみ110番の家の利用状況は。

所管課：予防措置であり、ほとんどない。あつては困る。トイレを借りることは多いし、ラジオ体操後のウォークラリーも実施している。

<意見交換>

副委員長：全体評価がAであり、構成事務事業の達成ランクもほぼAである。総合評価を変えるほどの意見は出なかったように思う。評価はAでよいのか。

委員：異議なし。

<方向性判断>

副委員長：総合評価をAとする。

市民大会の参加者数など、把握している数字は実数で表記すること。以上を意見としたいが、他には。

委 員：特になし。